# 第 3 次唐津商工会議所中期計画 2025-2028 概要 ～「歴史・文化・自然ゆたかな街で、進取の気性の人々を励まし、『産業・観光と文化が息づく街・唐津』を創ろう」～

## はじめに

**～第 2 次中期計画期間はどんな時代であったか。**
**これからどんな時代を迎えるのか～**

どんな時代であったか。

(1) 地政学的リスクの顕在化・政治の不確実性増。

(2) 日本の経済は新型コロナウイルス感染症により、特に観光・宿泊・外食業が大打撃。

(3) 唐津では市町村合併 20 年を迎え、人口減少が加速。働き方と街の魅力が問われている。

どんな時代を迎えるのか。

(4) 地政学的リスクの継続、「自国第一主義」の流れが自由貿易体制を阻害する懸念。

(5) 我が国経済は、コロナ禍を乗り越え、「デフレ脱却」、「金利のある世界」が実現→情報通信技術の飛躍的発展が経済を支える。

(6) 唐津では多くの若者が創業・起業に挑戦している。そうした中、いきいき唐津㈱がふるさとづくり大賞で内閣総理大臣賞を受賞。多くの社員が UI ターン者であることも評価された。

**望ましい地域経済をどのように考えたらいいか。**

(1) 若者回復率を上げるために、経済的魅力と文化的魅力を兼ね備えた街づくり

(2) 地方創生 2.0：人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる

**目指すべき地域経済の姿と目標**
**「歴史・文化・自然ゆたかな街で、進取の気性の人々を励まし、『産業・観光と文化が息づく街・唐津』を創ろう」**

目標 1. 一人当たりの市民所得をできるだけ早期に県平均に引き上げる。引き続き、全国平均に近づける。

目標 2.「若者回復率」を引き上げる。そのため、魅力ある職場と街をつくる。

目標 3. 関係人口を増やす。関係人口とは、観光以上移住未満と言われている。

目標 4. 市民が「文化が息づく街」に住んでいることを実感できるようにする。

**〈活動の基本姿勢として、**
**「対話」「交流」「連携」の原点を再確認します。〉**

「対話」により、地域経済の実態を正確に早く把握します。事業者に寄り添います。
「交流」により、化学反応を起こし新しい時代にふさわしい成長産業を育みます。
「連携」により、レバレッジ(梃子)をかけて事業を大きく育てます。

## 1. 唐津の地域経済の現状と課題を最新のデータで俯瞰する

(1) 新唐津市誕生から 20 年の人口の推移

(2) 我が国の将来人口推計

(3) 唐津市の将来人口推計

(4) 世帯数及び 1 世帯当たりの人数の推移

(5) 若者回復率：唐津、豊岡

(6) 自然増減・社会増減の推移

(7) 人口ピラミッド

(8) 産業別就業者の推移

(9) 市内総生産額とその推移

(10) 唐津市の一人当たり市民所得の推移と比較

(11) 唐津市の企業数・事業所数・従業者数の推移

(12) 雇用環境の推移

(13) 唐津市の地域経済循環

(14) ビッグデータ RESAS 分析～滞在人口を例にとって～

## 2. 地域経済を支えるとともに新たなステージに引き上げる新産業を育成しよう

**2-1. デフレ脱却の軋みを乗り越え、賃金と物価の好循環を実現し、新たな産業を興そう。**

(1) 脱デフレの軋みを乗り越え、事業を成長させよう。

(2) スタートアップ人材の育成とシステムの構築を。

(3) JCC の活性化とコスメ産業クラスターの形成を進めよう。

(4) 唐津 GX 推進プラットフォームの設立を機に、再生可能エネルギーを地域産業に育てよう。洋上風力発電は喫緊の課題。

(5) 人手不足対応の一環として日本語学校の誘致の検討を。

**2-2.「持続可能な観光地づくり」を進め、観光の質の向上、観光産業の収益力・生産性を高め、交流人口・関係人口を拡大する。**

人口減少時代にあっては、「観光は成長戦略の柱・地域活性化の切り札」であることを再確認する。

(1) インバウンドの佐賀県・唐津への誘客：「体験型」「日本らしさ」が鍵。

(2) 国内観光の高付加価値化： 3 つのツーリズムの提案。
①カルチャー・ツーリズム
②マリン・ツーリズム
③ガストロノミー・ツーリズム
これらを統括する DMO が必要。

(3) 関係人口の開拓を。まずは、東京・大阪・名古屋に高校の同窓会等のつながりから。

## 3. 市民・団体と企業が力を合わせて、唐津の資源を活かした賑わいと魅力ある街づくりを進めましょう

「唐津には良い資源がいっぱいあるのに地元の人が気づいてない」と言われますが「唐津の良くないところに地元の人が慣れてしまって危機感がない」ことにも留意しましょう。

(1) 第 3 次中心市街地活性化基本計画の策定を。唐津駅、アルピノ跡地など

(2) 唐津港港湾計画の改定と火力発電所の跡地利用計画策定

(3) 唐津焼美術館の早急な整備

(4) 佐賀県立大学開学が唐津の活性化となるよう事業者間の連携を

(5) SUP 等マリンアクティビティの活性化

(6) 市民による文化・まちづくり活動を支える仕組みづくり

## 4. 唐津商工会議所の変革を成し遂げよう /CX:KCCI Transformation の推進 ～「対話・交流・連携」の原点を大切に、途を切り拓こう～

『商工会議所を取り巻く現状と直面する課題』（日本商工会議所 2024. 2. 28）では次の 3 つの基本的な考え方を示している。

(1) 大きな環境変化に対応し、覚悟をもって自己変革に挑戦→地域における存在価値・プレゼンスの向上。

(2) 地域における多様な主体の連携拠点化（商工会議所は仕掛け人かつ先導役）→ 地域における資源（人材・財源）の集中化と効率化、活動成果の最大化。

(3) 地域の所得、事業者の所得を向上させる活動への転換→民間が主導し、自ら稼ぐ力を高め、地域内経済の好循環の実現。

**唐津商工会議所の変革を CX ： KCCI Transformation と名付け、**

普段の取り組み/PDCA の中での変革に積極的に取組む。

①いきいきとした職場環境の整備　②業務のデジタル化
③商工会館へのテナント誘致　④会員増強
⑤部会の見直し　⑥共済制度の普及促進

## おわりに

**唐津商工会議所創立 100 周年に向けて力強い歩みを進めよう**

2024 年、唐津商工会議所は創立 90 周年を迎えました。創立は 1934 年（昭和 9 年）で、2 年後には 2.26 事件で唐津にも縁の深い高橋是清大蔵大臣が殺害されるような騒然とした世の中でした。
第 3 次唐津商工会議所中期計画は、創立 100 周年に向けての重要な期間です。
「産業・観光と文化が息づく街・唐津」をつくるために力を合わせて頑張りましょう。